

増え続ける野犬

野犬とはどのような犬のことを指しているのでしょうか。そうです飼主のいない犬、いわゆる「のら犬」のことですね。では、その「のら犬」がなぜ増えるのでしょうか。

その根元にあるのは、飼主が生まれた犬を飼えないからとか、市が回収する時に出してしまうのはかわいそうだからという安易な気持ちで捨ててしまうことで野犬と化し、その野犬がまた子どもを生んでしまうという悪循環の中で増えています。

平成十一年度だけで、既に皆さんからの通報により野犬捕獲のための「オリ」を設置した回数は、百

回にものぼり、その内四十三頭の野犬を捕獲しました。

(内訳は下表のとおり)

ほぼ市内全域にまたがり生息する野犬。「オリ」を仕掛けたからといって、必ず捕獲できるとは限りません。えさを与えられている犬以外は、食べ物を求めて住みかを転々としながら生活していることが多いので、移動してしまう場合があるので捕獲できないこともよくあります。

そんな野犬は、お腹をすかしているため人間に襲いかかることもしばしばあります。こんなことにならないよう犬を飼っている方は避妊去勢を行うなど、むやみに繁殖させないようにすることも野犬増加防止につながりますのでご協力をお願いします。なお、生まれ

た犬の処分にお困りの方や、どうしても飼えなくなってしまう里親も見つからないという方は、週一回市役所で回収していますのでご利用ください(日時は広報に掲載)。

地区名	捕獲頭数	地区名	捕獲頭数
中央	2	厚原	3
法能	7	中津森	2
戸沢	4	小形山	2
鹿留	8	四日市場	1
夏狩	1	古川渡	1
大幡	9	朝日馬場	3

犬を飼っている方にお話をうかがいました。



田原にお住まいの藤江おさくさん

藤江さんのお宅では、五年前から「シュナウザー」という種類の犬を飼いはじめ、今では家族の一員として欠かすことのできない存在だそうです。

藤江さんは、もともと犬が嫌いで飼うことには反対だったそうですが、娘さんの希望もあり飼いはじめたところ、日に日に情が移って今では子どもを育てるのと同じような気持ちでかわいがっているそうです。最近では犬が散歩の時間帯を覚え、毎日三十分と狂わずその時間になると散歩を要求するので、かわいさも倍増とか。

と「ほうき」を持って出かけ、フンは必ず持ち帰るそうですが、「散歩中によその家の前にフンがあると、同じ犬を飼っているものとして心が痛みます」とおっしゃる藤江さん。

愛情をかけて育ててやることと、人に迷惑をかけない「しつけ」をしてやることは、最低飼主が実行しなければならぬ責任です。また、誰でもが犬を好きではないので、飼っていない人の身になつて育てることも大事なマナーではないでしょうか。と最後に結んでくれた藤江さんは、八十一歳には見えないほど元気でした。

子ども達が危ない！

「登下校の際、子ども達が野犬に出会い怖い思いをした」というような話をよく耳にします。

実際、通報を受けて「オリ」を設置する場合にも「子ども達が危険な目に遭った」というケースが多々あります。犬に対しての防御は、大人なら可能かもしれませんが、子どもは襲われてしまえばほとんど抵抗することができません。しかも登下校中には、大人は側にいませんから大ケガをしてしまうことも考えられます。

市では、子ども達を始め皆さんの安全を守るため定期的に野犬がいるような場所を見回り、できる限り捕獲するように努めています。が、いっこうに減る様子はありません。ペットとして犬を飼っている皆さん、犬に愛情を注ぎながら飼っていることと思いますが、絶



野犬を見かけたら近づいたりせず、すぐに市役所にご連絡ください。捕獲のための「オリ」を設置します



対野犬にするような行為だけは避けてください。

また、首輪を付けたまま放し飼いにされている犬を見かけることがあります。飼主だからとはいえ、誰にでもなついていくわけはありません。飼主の知らないところで人に迷惑をかけている可能性も十分考えられますので、決して放し飼いにすることはしないでください。

ペットを飼う人は基本的に動物が好きなので、愛犬を大切に育ててくれるはずですが、もう一度「初心」に戻って最後まで面倒を見るんだという強い意志と、人に迷惑をかけずに育てることの重要さを再認識する必要があるのではないのでしょうか。なぜなら、それが飼主主人に課せられた責務なのだから・・・。